

問1 江戸時代中期の思想家である安藤昌益の主著で、すべての人が自ら農耕を行う「直耕」を理想とし、当時の身分制度や支配階級を厳しく批判するとともに、天地自然と人間が一体となった理想社会のあり方を説いた著作は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 統道真伝 2. 華夷通商考 3. 西域物語 4. 自然真営道

問2 室町時代に父の観阿弥とともに猿楽能を大成し、奥深く言葉に表せない情趣である「幽玄」を芸術理念とした人物は誰か。彼は、演者の魅力や芸術的境地を「花」に譬え、年齢に応じた修行や演技の心得を『風姿花伝』に著した。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 観阿弥 2. 世阿弥 3. 音阿弥 4. 善阿弥

問3 西洋的な個人主義を批判的に検討し、人間を単なる孤立した個人としてではなく、人と人との「間柄」において自己が成立する共同体的な存在として捉える独自の人間観を提示した、『風土』や『倫理学』などの著作で知られる日本の思想家は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 九鬼周造 2. 和辻哲郎 3. 内村鑑三 4. 吉野作造

問4 大正期に活躍した白樺派の作家であり、自己の個性を生かしつつ他者と協同して生きる人道主義の理想を掲げ、宮崎県に「新しき村」と呼ばれる共同体を建設した人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 武者小路実篤 2. 有島武郎 3. 志賀直哉 4. 倉田百三

問5 古代の日本において、人々は特定の形をもたない自然物や、人知を超えた不可思議な現象そのものに畏怖の念を抱き、そこに超越的な力が宿ると信じた。このような、自然を畏れ敬うアニミズム的信仰の対象であり、のちに『古事記伝』において「尋常（よのつね）ならずすぐれたる徳（こと）ありて、可畏（かしこ）き物」と説明された、日本固有の超越的な存在を指す言葉は何か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. ワビ 2. カミ 3. サビ 4. ハレ

問6 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の論理を用いながら東洋的な思索を体系化しようと試みた。彼は著書『善の研究』において、主観と客観が分かれる前の直接的な意識状態を重視し、のちに主客を包み込む根底としての「場所」や、万物を生み出す根源としての「絶対無」の思想へと発展させた。この哲学者は誰か。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 和辻哲郎 2. 内村鑑三 3. 西田幾多郎 4. 吉野作造

問7 自然界（宇宙）の完璧な秩序に対して、人間が創り出す技術や社会制度などの秩序は不完全であり、常に「謬り（あやまり）」を内包しているが、その謬りを自覚し、試行錯誤を重ねていく実践のプロセスにこそ人間の創造性があると考え、『美学入門』などを著して独自の技術論を展開した、昭和期の日本の美学者・思想家は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 丸山真男 2. 和辻哲郎 3. 鶴見俊輔 4. 中井正一

問8 本居宣長は、事柄に相応して素直に喜びや悲しみを感じる人間の自然な感情のあり方を重視し、道理を優先させて感情を無理に抑え込もうとする儒学の道徳観を批判した。宣長が『源氏物語』などの文学研究を通じて見出した、この人間本来の自然な情意のあり方を表す言葉は何か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. もののあわれ 2. やまごころ 3. ますらおぶり 4. たおやめぶり

問9 江戸時代中期に石田梅岩によって創始された、町人のための実践的な道徳・生活倫理の学問を何というか。この学問では、儒教・仏教・神道の思想を融合させ、商業活動における利益の追求を正当なものとして肯定し、それぞれの身分が果たすべき社会的分業の重要性と、自らの職業に励むことの意義が説かれた。（2018年 全国公立入試 類似）

1. 復古神道 2. 古文辞学 3. 石門心学 4. 尊王攘夷

問10 明治中期、古河市兵衛が経営する銅山から流出した鉱毒により、渡良瀬川流域の農漁業に深刻な被害をもたらした、日本の公害問題の原点とされる事件は何か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 日立鉱山煙害問題 2. 高島炭鉱労働問題 3. 別子銅山煙害問題 4. 足尾銅山鉱毒事件

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 自然真営道	『自然真営道』は、江戸時代中期の思想家・安藤昌益の代表的な著作である。本書において昌益は、万人が自ら耕作して生活する「直耕」の社会（自然世）を理想とし、武士が農民から搾取する当時の封建社会を「法世」として厳しく批判した。
問2	答え 2 世阿弥	観阿弥・世阿弥の父子は、足利義満の保護を受けて猿楽能を大成した。世阿弥は、奥深く神秘的な美を表す「幽玄」を能楽の理想とし、芸術的魅力を「花」に譬えて、その修行論や演技論を『風姿花伝』などの伝書にまとめた。
問3	答え 2 和辻哲郎	西洋の個人主義的な人間観に対し、東洋や日本独自の共同体的な人間観を再評価した。彼は、人間を「人」とすると同時に「社会（間柄）」でもある二重の存在として捉え、人と人との関係性（間柄）において自己が成立すると主張した。
問4	答え 1 武者小路実篤	白樺派を代表する作家である武者小路実篤は、自己の個性を尊重し、他者の個性も重んじる人道主義の立場をとった。その理想を实践する場として、宮崎県に「新しき村」を建設し、農業と創作活動を両立させる協同生活を試みた。
問5	答え 2 カミ	古代日本における信仰の対象は、特定の形をもつ造物主のような存在ではなく、人間に畏怖の念を抱かせる自然物や不可思議な現象そのものであった。本居宣長は『古事記伝』において、これを「尋常ならずすぐれたる徳ありて、可畏き物」と定義した。これは、自然のあらゆるものに神聖な力を認めるアニミズム的な信仰に基づいている。
問6	答え 3 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が未分化な状態である「純粹経験」を出発点とし、のちにそれを発展させて「場所の論理」や「絶対無」の哲学を構築した。これは西洋の近代哲学（主客二元論など）を乗り越え、東洋的な「無」の思想を論理化しようとする試みであった。
問7	答え 4 中井正一	宇宙の完璧な秩序と、人間が創り出す不完全な技術的秩序を対比し、人間は「謬り」を犯しながらもそれを踏みしめて試行錯誤を重ねることで真実へと歩みを進めることができると主張した。この思想は彼の著書『美学入門』などに示されており、戦後のメディア論や図書館運動などにも大きな影響を与えた。
問8	答え 1 もののあわれ	事柄に直面したときに、心がその対象に共鳴して自然に動く情意のあり方を指す。本居宣長は、儒学が道理によって感情を抑制しようとすることを「からごころ（漢意）」による偽りであると批判し、この自然な感情の動きこそが人間本来の真実の姿であると主張した。
問9	答え 3 石門心学	石田梅岩が創始した石門心学は、町人の生活倫理を説く実践的な道徳学問である。それまで卑しいとされていた商業活動や利益の追求を、社会的な役割を分担し合う「社会的分業」の一環として肯定的に捉え、それぞれの職業に誠実に励むことが道徳的実践であると説いた。神道・儒教・仏教を融合させた平易な教えは、広く庶民の間に浸透した。
問10	答え 4 足尾銅山鉍毒事件	栃木県の足尾銅山から流出した重金属などの有害物質が渡良瀬川流域を汚染し、農作物や魚類に甚大な被害を与えた。この事件は日本の公害問題の原点とされ、田中正造らによる激しい抗議運動や、谷中村の強制廃村などの悲劇を生む契機となった。